平成３１年度　学校経営計画　足立区立花保小学校

学校長 半田　英雄

１　学校教育目標

○心豊かで思いやりのある子ども	○自ら進んで考え、工夫する子ども
○健康でねばり強い子ども	○たがいに協力し、進んで実行する子ども

２　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	確かな学力と豊かな心、健やかな体を本気で育てる学校 ○学力を定着させる学校　○豊かな人間性をはぐくむ学校　○体力・運動能力を高める学校 ○家庭・地域が協力し合う学校　○組織的に教育活動を展開する学校
○児童・生徒像	○心豊かで思いやりのある子ども（あいさつをきちんとし、誰に対してもやさしく思いやりのある子） ○自ら進んで考え、工夫する子ども（自ら考え、自ら学ぶ意欲を身につける子） ○健康でねばり強い子ども（健康で、我慢強く最後までやりとげる子） ○たがいに協力し、進んで実行する子ども（自分で考え自分で判断し自分で行動できる子）
○教師像	○プロ意識をもち、教育活動を生き甲斐と感じる教師 ○子どもと共に自ら伸びようと努力し続ける教師

３　学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

○　児童について

明るく素直で活発な児童が多い。肯定的な指導を行うことで、朝会や集会などでの集団行動時の規律が向上してきている。低学年での指導を手厚くすることで、学習規律や生活規律が整った学年・学級の構築が図れてきている。さらに多様な教育活動を通して、心を育て自己肯定感を高めること、自立させるための習慣化が課題である。

○　教職員について

教職員全員で知恵を出し合い、学校経営、学年経営の視点で具体策をもって仕事を遂行していく体制が確立された。ベテランから若手までの全員が本校の諸課題について強い危機意識と改善意欲をもって「心は一つ」を合言葉に解決している。今年度も OJT 制度、主任教諭研修制度を活用しながら若手教員からベテランまでそれぞれの力量に見合った人材育成を行っていく。

○　家庭・地域について

学校全体の学習の場としての落ち着きや日常の教育活動の様子から学校への信頼関係が着実に深まってきている。さらに家庭に学校教育への理解と家庭で為すべきことへの協力を求めていく。PTA 活動は、学校に愛情をもって協力する姿があった。よい校風が継続するように感謝の気持ちをもって連携していく。地域は、学校の成果を評価し、学校への応援を惜しまない。

重点的な取組事項－１　学力向上

○数値目標　平成３０年４月区学習定着度調査　区平均通過率　７８．７％

○実施結果　平成３０年４月区学習定着度調査　花保小通過率　８３．６％

数値目標を上回ることができた。これは担任、専科教員、特別支援教室教員、日本語指導教員、時間講師、そだち指導員、学習支援員等の全教員が真摯な努力を積み上げてきたこと、そして多くの手立てを共通に実施してきたことの相乗効果である。具体的には、ＳＰ表と個票の分析及び個別対策の時間を学年会に位置づけた。管理職と学年とのデータに基づく学力分析・対策会議及び面接を定期的に実施し、児童個々に対する方策を練らせた。１月には、上学年担任が下学年担任に向けて「進級をふまえて今やるべきこと」連携学年会議を実施した。また、実際に授業の充実を図りながら、中休み、給食準備中、放課後等あらゆる時間を利用して既習事項の個別指導を行った。さらに管理職も全学年実施の漢字検定の採点や表彰、九九免許更新試験等で基礎・基本の習熟を徹底的に図った。「九九検定」については真に身に付けさせるために、新免許制度で実施した。希望者には「漢字検定」「数学検定」も実施した。本校の教職員は同僚性に優れ、共通行動がとれる教員集団である。平成３１年度も数値の向上を図るが、教員の学力向上への意識と共通行動、各教員の技量等、後進の人材育成が課題となる。また、個別指導の時間の確保も課題となる。

重点的な取組事項－２　保育園・幼稚園・中学校との連携

○達成目標

・保育園・幼稚園・中学校と連携を密にし、入学時・卒業時の円滑な接続と基礎学力の定着を図る。

・花保中学校と小中連携教育を進め学力向上を図る。

○実施結果

保育園・幼稚園との連携

・保育園で「数の概念」や「平仮名」、「鉛筆の持ち方」等の研修を実施し、保育士に指導法を学ばせ、園児は学ぶ楽しさを体験できた。また、保護者向けに校長が講演を行い、入学前の不安を払拭するとともに、小学校教育について理解を図った。平成３０年度は２園で校長講話を実施することができた。

・本年度、学区域に新規開設した保育園に積極的に働きかけ、連携を推進した。

・給食体験、図書室での読書体験、交流遊び等によって小学校進学への期待感を高められた。

花保中学校との連携

平成２３年度からの足立区小中連携モデル校の取組みを継続して実施することができた。中学校は問題解決型の授業を目指し、努力し授業改善されている。中学校の学力定着度調査でもようやく連携の成果が数値となって表れてきた。足立区の中学校教員との各教科間の連携を深める必要がある。

重点的な取組事項－３　教師の指導力向上

○数値目標　管理職の授業評価　全員Ｂ以上

○実施結果　管理職の授業評価　全員Ｂ以上達成

これまで研究を深めてきた「算数」「国語」、「算数」では、児童の自力解決を大事にした問題解決型授業展開、「国語」では、言語活動の指導法が継承されている。ベテランから若手までの全員が本校の学習における課題について強い危機意識をもって、自己

の授業力の改善を図れた。授業改善には足立区教科指導専門員の継続的な指導も効果があった。次年度も継続して指導力向上を図る。

重点的な取組事項－４　心の教育の充実

〇数値目標　学校評価項目　道徳授業の充実　９０％　明るく楽しい学校　９５％

〇実施結果　学校評価項目　道徳授業の充実　９５％　明るく楽しい学校　９７％

一人一人が自分自身のリーダーになり、自信をもって、実りある充実した人生を送れるようにするために、「リーダーインミー」を心の教育の柱として推進した。また、ＱＵ調査を年２回実施し、学級全体と児童個々の状況や学級内の対人関係をデータによって明確に把握した。管理職と学年とのデータに基づくミーティングを定期的に実施し、児童個々に対する方策を練らせた。データに基づく声かけや励まし等で、児童の自己肯定感が高まってきている。心を豊かに育てるために、道徳授業を充実させただけでなく、城北特別支援学校小学部との交流、環境カルタ、百人一首、無言清掃などの取組を行った。朝のあいさつ運動には開かれた学校づくり協議会委員も定期的に参加した。全校朝礼で多くの表彰を実施し、児童の活躍を認め、結果を賞賛することで温かな学校風土の確立に努力した。サンクスウィークスでの家庭の協力も効果があった。また、東京パラリンピックの種目であるゴールボール応援校として東京都で唯一指定された。区のオリンピック・パラリンピックに向けたオレンジプロジェクトの拠点校としてオランダ選手とも交流した。選手との交流や競技体験で、スポーツを通した「共生社会」について学ぶことができた。３１年度もそれぞれの手立てがマンネリにならないように効果検証をしながら、一層の心の教育を推進する。

4　重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		29	30	31	32	33
1	学力向上	〇	〇	〇	〇	〇
2	保育園・幼稚園・中学校との連携	〇	〇	〇	〇	〇
3	教師の指導力向上	〇	〇	〇	〇	〇
4	心の教育の充実	〇	〇	〇	〇	〇

5　平成３１年度の重点目標

重点的な取組事項－１	学力向上

A　今年度の成果目標	平成３１年度区学力調査目標通過率と年度末の到達目標
足立区平均通過率と同水準を達成する。	７８．７％（平成３０年度区平均） 年度末９０％

B　前年度の取組み内容

項目	具体的な方策
個の学力状況の把握と分析	〇担任引継ぎ会議　春季休業中実施 〇学年会で区学力定着度結果表及び個票の分析と対策を定期的に行う。 ・ＳＰ表の分析と対策　・区学力定着度個別表の活用 ・ポートフォリオの作成と活用　〇区学力定着度調査の活用 ・4 月プレテスト・10 月再テストの実施・2 月プレテスト 〇「そだち指導」「MIM」の指導　担当責任者の進行管理
パワーアップタイム（朝学習） 花保ステップタイム（水曜日） 夏季学習教室	〇マスターテスト　〇東京ベーシックドリル診断テスト 〇習熟のための個別指導 〇夏季学習教室　・習熟度別個別指導
放課後補習の実施	〇習熟度に見合った放課後個別指導 〇新九九検定制度の実施と２種類の免許証の発行
家庭学習	〇家庭学習カードの活用　担任の把握 〇家庭学習の理解と実施 〇全家庭への周知 〇児童による内容の紹介　全校朝会
環境整備等	〇花保教室環境スタンダードの企画立案 〇「漢字検定」・「数学検定」の実施（希望者）

C　前年度の成果と課題
重点的な取組事項－１　学力向上 〇数値目標　平成３０年４月区学習定着度調査　区平均通過率　７８．７％ 〇実施結果　平成３０年４月区学習定着度調査　花保小通過率　８３．６％ 　数値目標を上回ることができた。これは担任、専科教員、特別支援教室教員、日本語指導教員、時間講師、そだち指導員、学習支援員等の全教員が真摯な努力を積み上げてきたこと、そして多くの手立てを共通に実施してきたこととの相乗効果の結果である。具体的には、ＳＰ表と個票の分析及び個別対策の時間を学年会に位置づけた。管理職と学年とのデータに基づく学力分析・対策会議及び面接を定期的に実施し、児童個々に対する方策を練らせた。１月には、上学年担任が下学年担任に向けて「進級をふまえて今やるべきこと」連携学年会議を実施した。また、実際に授業の充実を図りながら、中休み、給食準備中、放課後等あらゆる時間を利用して既習事項の個別指導を行った。さらに管理職も全学年実施の漢字検定の採点や表彰、九九免許更新試験等で基礎・基本の習熟を徹底的に図った。「九九検定」については真に身に付けさせるために、新免許制度で実施した。希望者には「漢字検定」「数学検定」も実施した。本校の教職員は同僚性に優れ、共通行動がとれる教員集団である。平成３１年度も数値の向上を図るが、教員の学力向上への意識と共通行動、各教員の技量等、後進の人材育成が課題となる。また、個別指導の時間の確保も課題となる。

D　今年度の目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
別紙 **「平成 31 年度　学力向上アクションプラン」参照**		

重点的な取組事項－２	保育園・幼稚園・中学校との連携
A　今年度の成果目標	達成基準
保育園・幼稚園・中学校との連携を密にし、入学時の円滑な接続と基礎学力の定着を図る。	幼保中と連携して教育を進め、下記の 2 項目を達成する。

B　目標実現に向けた取組		
項目	達成基準	具体的な方策
花保中学校との連携	・教員相互の授業力を高めるための研究授業の実施 ・小学校の「外国語活動、外国語科」から中学校につなぐための情報交換 ・「自立」に向けた共通の土壌づくりができる。 ・体験・交流活動の実施	〇児童・生徒の学力定着度の情報交換 〇情報交換・調整会議（月１回の実施） 〇授業研究の相互実施と研究協議会参加 ・年間６回（内容） 研究授業　６回（小３回　中２回） 全体会２回 〇生徒会学校説明会、合奏団交流
保育園・幼稚園との連携	・円滑に小学校生活をスタートすることができ、4 月中に小学校生活に慣れる。学習規律や生活規律を守ることができる。 ・平仮名が読め、正しい鉛筆の持ち方で、正しい筆順で自分の名前が書ける園児を増加	〇小学校スタートカリキュラム実施 〇4 月入学時実態調査の公表 〇連携保育園・幼稚園 ・卒園児状況参観（５月） ・校長講話（園保護者対象） ・交流研修会の実施 ・文字研修支援のための教員派遣 ・情報交換会の実施 ・プール体験（見学） ・給食体験 ・図書室体験 ・１年生との交流集会 ・運動会練習見学 ・音楽会への招待 ・本校での運動会や発表会の実施と支援

重点的な取組事項－３	教師の指導力向上

Ａ 今年度の成果目標	達成基準
教師一人一人の指導力の向上	教師一人一人の指導力の向上（OJT ガイドラインに基づく教師一人一人の育成段階ごとの目標達成）

Ｂ 目標実現に向けた取組

項目	達成基準	具体的な方策
資質向上	都 OJT ガイドラインで求められている経験年数、職層に応じた目標の達成 ・基礎形成期の目標達成 ・職層に応じた職務の遂行 ・共通行動	○校長レクチャーの実施（年度当初） ○転入・新規採用教員研修の実施 ○自己申告書・面接の重視 ○学力対策レポートの作成と面接 ○若手教員養成塾の実施　10 回以上
指導力・授業力の向上	・授業の基本の確立 ・統一された学びのスタイルの確立 ・管理職による授業評価 ４段階　Ｂ以上　全員達成 ・保護者授業参観アンケート 「改善を要する」 3%以下 ・学校評価項目　　90％	○足立スタンダードの習得　算数・国語 ○学校及び学年共通指導 ○教科指導専門員の指導・助言 ○授業分析 板書撮影と逐語記録による授業分析 ○管理職の授業評価と指導・助言　随時 ○区小研への全員参加

重点的な取組事項－４	心の教育の充実

Ａ 今年度の成果目標	達成基準
児童一人一人の心の成長	学校評価による数値の向上

Ｂ 目標実現に向けた取組

項目	達成基準	具体的な方策
心の教育の充実 道徳授業の充実 いじめ防止	・ＱＵ調査の２回目の調査結果での「学級生活満足群」数値割合の向上 ・学校評価で「道徳活動に力を注ぎ、公開授業を行ったり、子どもに思いやりの心や規範意識を育てたりしている。」90％	○全校朝会での講話と表彰 ○ＱＵ調査の２回実施と分析 ○「リーダーインミー」教育の実践 ・研究発表会の実施 ○道徳授業の充実 ○東京オリンピック･パラリンピック教育 ・東京都「ゴールボール応援校」の活動 ・足立区オレンジプロジェクトへの参加 ○百人一首の暗誦と区大会への参加 ○いじめ防止にかかわる児童会活動 ○城北特別支援学校児童との交流 ○家庭と連携したサンクスウィークス ・サンクスカードプレゼント ○児童の教育目標と達成するための手立て「１７（いいな）宣言」の浸透
あいさつの徹底に取り組む	・学校評価で「子どもが明るく楽しく生活する雰囲気になっている。」 95％	○あいさつキャンペーンの実施 ○保護者、地域への広報活動 ○あいさつボランティアの活動 ○開かれた学校づくり協議会の協力
特別活動の充実	・特別活動のねらいをふまえた行事や集会、学級活動などを行う。	○児童の活躍の機会を増やし、結果を賞賛することで自己肯定感を高める。
無言清掃	・無言清掃の定着	○強化週間の実施